

# 倉掛新聞

〈発行所〉  
倉掛自治連合会  
井原市井原町倉掛  
会長／片岡秀憲  
〈編集〉  
倉掛自治連合会  
倉掛少年団育成会  
消防井原分団第3部

## 神苑の樹木採 枝打&伐採

### 郷社足次山神社



郷社足次山神社の神苑を彩っている巨木などの枝打ち及び一部伐採＝写真＝が11月28日、好天の下で行われた。

秋季全国火災予防運動が始まった11月9日、倉掛少年団の夜警活動出発式がつどえ〜で行われ、関係者約40人が出席した。

開式にあたり西山加菜育成会長が「きょうから二日間、地域へ防火を啓発しましょう」と挨拶。続いて来賓の井原小学校佐藤芳明校長・倉掛自治連合会の片岡秀憲会長・井原分団の瀬藤慎二本部長がそれぞれ団員らを激励した。

このあと防火パトロール隊は「その火事を防ぐあなたに金メダル」「マッチ一本火事のもと」などと、拍子木を打ちながら倉掛北部の住民へ呼び掛けた。翌10日は南部を巡回した。



防火を呼び掛ける少年団員ら

倉掛少年団

## 夜警活動 資源回収

15日  
倉庫での分別作業 11月



倉掛少年団秋季資源回収が11月15日、佐藤物産(株) (井原町下町) を集積所に行われた。

作業に入る前、同社の佐藤高司社長からリサイクルの必要性について教わり、育成会員が運転する軽トラックなど7台に団員も同乗して出発。家々の前に出された新聞紙・雑誌・ダンボール・アルミ缶などを次々と回収した。

午前中に作業を終えた育成会の西山加菜会長は「地域の皆様には大変お世話になり有り難うございました」と礼を述べていた。

続いて枝益六先生の頌徳碑や空堀周辺の樫や杉などの枝を切り、社務所前の樹木2本も伐採。神苑全体が随分と明るくなった。

この日の作業は午後からも行われるなど、かつてな



午前8時30分、チェーンソーを手にした総代6人と高所作業車の運転免許を持つ西山津好さん(倉掛13-1組)らによって作業は始まり、最初に忠魂碑北側の楠の垂れ下がった部分を枝打ち(剪定)。

### 鮮やかな放水を見学する家族ら



## 勇壮に放水訓練

いほど大掛かりなものとなった。

課題多い郷社運営  
神苑の樹木が長年の間に伸びたため2年前、本格的な半伐採や枝打ちの見積りを専門業者に依頼したところ、片付けまで含めるとその費用は約5百万円にも上ることが判明。

しかし、現在の郷社会計には捻出可能な資金はなく断念を余儀なくされた。

社務所の老朽化とともに郷社が抱える運営資金不足問題は依然、解決の糸口が見いだせていない。

### 井原分団 防火デー

井原分団秋季防火デーに因む式典が11月8日午前8

### 郷社新年祈願祭 日程決まる

時より井原小学校グラウンドで挙行された。

続いて次年度部長の指揮で各個訓練、午前10時から向町河川敷で住民多数が見守る中、4台の消防車による放水訓練を実施した。

郷社新年祈願祭は元旦深夜が午前零時〜午前1時。同日から3日までの日中は午前9時〜午後3時まで。

新型コロナウイルス感染症予防のため、拝殿前の鈴は鳴らせないようにされる。

「このカフェはいつまで休むつもり？」と、聞かれることの多い最近のつどえ〜です。

コロナ意識も高く、市内外より多くの方々にお越しただいておりました。

しかし今年3月、新型コロナウイルス拡大防止策のため、市内の赤羽根カフェはすべて閉鎖され、今もほとんどがそのままだ。

コロナワクチンに関する様々なニュースが飛び交う昨今、安全で有効なワクチン接種が可能となるのも間近でしょうか。

コロナ終息と経済の立て直しの見通しが立った上での東京オリンピック開催およびカフェ再開を願うばかりです。

## つどえ〜るカフェ



倉掛パソコンクラブ

井原市社会福祉協議会が推進する赤羽根カフェ。地域コミュニティの活性化を図ろうと2015年4月、野の花カフェ美星を皮切りに、市内の32カ所へ続々とオープンしました。

その一つのつどえ〜るカフェは、倉掛パソコンクラブが2016年4月より運営を担当。コーヒー一杯百円を基本とし、スタッフのボランティアで運営されています。



# 親子で楽しむ 倉掛少年団クリスマス会

# 多彩な出し物に笑顔



「箱の中身はなんだろう」の出し物

倉掛少年団が新型コロナウイルス感染症対策を施し12月6日、井原公民館でクリスマス会を開いた。

午後1時、育成会の西山加菜会長が「新型コロナウイルスの影響で様々な行事が中止になっていますが、きょうはクリスマス会を開催できてよかったです。皆で楽しい時間を過ごしましょう」と挨拶。

照明を落とし、女子団員二人が扮する女神のキャンドルサービスで雰囲気盛り上げ、声高らかに「メリクリクリスマス！」。クラッ



カーを鳴らし、出し物に盛りました。最初は5年生女子のゲル

ープが男性陣に化粧をし、仕上げにカツラをかぶらせる「女装グランプリ」。一番女性に見えた藤井奏太君の組に大きな拍手が送られた。

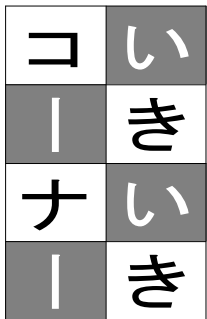
- ◆ 行事予定 ◆
- 12/27 日 門松&植込み作り(郷社)
  - 12/27 日 新町マルシェ(新町商店街)
  - 12/28 日 つどえ〜る仕事納め
  - 12/28~29 日 井原市消防団夜警活動
  - 12/29 日 郷社掃除&新年祈願祭準備 9:00~
  - 1/1 日 郷社新年祈願祭 00:00~1:00
  - 1/1~3 日 郷社新年祈願祭 9:00~15:00
  - 1/3 日 井原分団第3部試運転日
  - 1/5 日 つどえ〜る仕事始め
  - 1/10 日 井原市成人会
  - 1/16 日 倉掛自治連合会役員会
  - 1/17 日 井原市消防出初式
  - 1/17 日 櫻の杜の市(門田町大谷)
  - 1/30~31 日 郷社厄除け祈願祭 9:00~15:00
  - 2/7 日 井原分団第3部試運転日
  - 2/21 日 倉掛少年団入退団式

※つどえ〜るカフェ(祝日休み) 現在休止中です  
※つどえ〜る金曜朝市 現在休止中です



転勤族だった私は、家庭の事情で36年前に井原へUターン。お陰様で再就職した会社も6年前に無事定年退職しました。その後は、関連会社で事務兼諸々の仕事を任せられ自由のびのびと気楽に勤めさせてもらっています。社長からも「身体が長く勤められるようにこれからも健康に留意していきたいです」。

## ～いつまでも 生涯現役で～



となった愛犬ベルが、今年の5月にワクチン接種後容態が急変し突然の別れとなってしまいました。晩の散歩もしていない。生前は雨が降ろうが雪が降ろうが毎朝出勤する前に20分、夕方には50分の散歩が日課でしたが、あ

ところが、最近は何年かのせいか体のあちこちにカタカタと痛みを感じるようになってしまいました。以前の生活と比べると確かに運動不足だ。仕事はデスクワーク中心。それにコロナの発生で日常生活に制限がかかり自由に行動ができない。そして一番の原因は、7年前に家族の一員

倉掛自治連合会  
消防環境部長 関戸啓二



よう、将来少しでも家族に迷惑をかけないようにと散歩を開始しました。愛犬が待受け画面のスマホを片手に、健康アプリでポイントを貯めながら夕食後40分位かけ、四季を感じながら今日も元気で歩けることに感謝しながら町内を歩いています。時には妻と一緒に仲良く…(笑) また定年後は時間にも余裕ができ、元気な内に妻と旅行でもしようかと計画を立てていたのですが、コロナの終息が見えない中、全てがキャンセルとなりとても残念です。一日も早くコロナが終息し自由に行動できる日がくることを願うばかりです。皆様もコロナ感染に十分注意され、くれぐれも自愛ください。

## 門松や植込み

郷社で27日に

参加申込はつどえ〜るへ



「正月用の門松や植込み作りが郷社恒例の年末行事になるかもしれない」と

## 倉掛ほっと情報

### ■マルセン財団から郷社へ助成金

岡山県のスポーツ・文化の振興発展を支援するとともに、県民が健康で豊かな心をもって生活できる環境・社会の実現に寄与することを目的としている(公財)マルセンスポーツ・文化振興財団。この財団から郷社足次山神社へ巫女舞装束と神楽鈴の代金90,340円についての助成があり先般、民族工芸株式会社(長崎県佐世保市)から8点を購入した。活動助成金贈呈式を経て11月10日、RSKラジオの助成団体活動報告番組「おかやま元気応援団!」へ大久保克朗総代長が出演し郷社をPRした。郷社まつりの巫女舞いは、芳井町三原の中山天神社と糸崎八幡神社で約700年の昔から舞い継がれていた岡山県指定の重要無形民俗文化財「鈴の舞と扇の舞」。当足次山神社がその伝統を引き継ぎ後世へ伝承している。

ひそかに話し合っているのは足次山神社の役員。2枚の写真は昨年の大晦日、拝殿前へ並べられた4種類の門松。初詣に訪れた人たちの目を引いた。これはすべて立石泰之総代(夏目地区)の試作品。試作といっても材料はすべて地元産である。本格的なもの。きれいな仕上がり具合を見た総代や敬神会の女性らが「自分も作ってみたい」と立石総代に相談。今月27日午前9時から郷社で体験会を開くことになった。一般の見学は自由。材料に余分があれば実費で参加可能。植木鉢が力メのような容器が必要。問い合わせは今月23日までにつどえ〜るへ。